



駒本の力

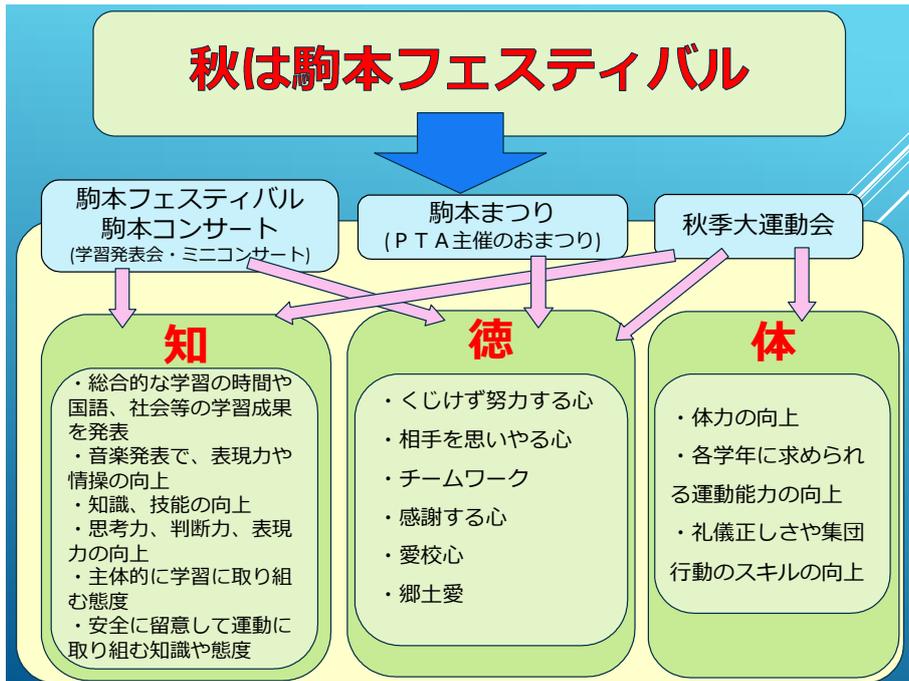
駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 33

平成 28 年 10 月 18 日

秋は駒本フェスティバル！



校長 田中 克昌
不安定な天候の中での二日間に及ぶ運動会となりましたが、子どもたちの頑張りは素晴らしいものがありました。保護者の皆様には、開催及び運営に際しまして、ご支援・ご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。保護者の皆様からは様々なご意見をいただいております。それらをしっかりと受け止め来年度の運営に活かして参ります。

さあ、「秋は駒本フェスティバル！」です。2学期には3つのフェスティバルが行われます。一つは、スポーツフェスティバルの運動会でした。二つ目が、PTA主催による「駒本まつり」です。三つ目が、今年から実施される「学習発表会」です。名称は、学習発表会を駒本フェスティバル、音楽のミニコンサートを駒本コンサートとしました。PTAの本部の方では、駒本まつりだけではなく、運動会や学習発表会も意識してくださり、「秋といえば駒フェスでしょ！」のキャッチコピーで駒本まつりの様々な準備をすすめてくれています。企画・運営・実施にご協力いただいている皆様には、心より感謝申し上げます。駒本まつりでは、PTAだけではなく、学校支援地域本部や地域の諸団体の皆様のご協力もたくさんいただいております。地域をあげての大きな行事となっていること、本当に素晴らしいと思います。

前に、行事で育てる2学期というお話をいたしました。私たちは、一つ一つの行事において、子どもたちの知徳体のどんな部分を育成していくことが必要なのかについて検討し、それを「ねらい」として定め、子どもたちの育成に努力し、行事をすすめています。上の図が、今回の「秋は駒本フェスティバル」の三つの行事において、育てたいことを簡単に表したものです。さらに学校は、子どもたちが社会人として活躍する2030年をターゲットにして、様々な社会状況の変化に対応していける子どもたちを育成しなければなりま

せん。2030年の社会状況は、現在とは大きく異なることが予測されています。世界全体の社会状況の変化や技術の進歩、そしてなにより、私たちの日本は現在よりも、人口が減り、より高度高齢化社会になり、大きく就労人口が減ると言われています。これらの変化に対応するため、新しい指導要領の作成が現在進行しているわけです。

みんなで見ようか踊ろう会【日本舞踊体験】



17日には、2年3年の子どもたちを対象に「みんなで見ようか踊ろう会」という名称で、日本舞踊の体験をいたしました。文京区日本舞踊普及会の若柳会長さんをはじめとして、運動会の八木節でご指導いただいている、坂東先生や前校長の石坂先生など、計12名の先生方にお越しいただき、3時間目に2年生、4時間目に3年生が体験しました。座り方やお辞儀の仕方の礼法、扇の扱い方や見立て

を教えていただき、清元「玉兎」（月の中に棲んでいると信じられていた兎が、月の中で餅つきをする餅つき踊りを表現した後、カチカチ山の狸退治の様子も踊るといっておとぎ話を舞踏化した踊りが続きます。）という踊りを見学させていただきました。さらに、踊ろう、ということで、「さくらさくら」の踊りを教えていただき、子どもたちが実際に踊ってみました。何回か行う中で、次第に子どもたちの踊りが徐々に日本舞踊らしくなってきました。

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、駒本小ではオリパラ教育として様々なことに取り組んでいます。今回の日本舞踊体験は、自国の文化を知るとい国際理解教育としても意義の高い学習となっています。お越しいただいた文京区日本舞踊普及会の皆様に感謝申し上げますと共に、さらに、日本の伝統文化に触れることができる学習も積極的に進めて参ります。先月には、オリンピックとしてバルセロナオリンピックの陸上競技の代表選手であった、渡邊高博さんにお越しいただき、子どもたちに直接、走り方を教えていただき、お話を聞くことができました。

【お詫び】前号で、運動会の応援団の構成について、4年生以上で構成されている、という誤記載がありました。正しくは、「3年生以上」です。誤記載についてお詫び申し上げます。3年生の応援団の子どもたち、とても立派でした。